６月議会後初めて図書館の企画・地域支援係長と鶴川図書館の今後について意見交換

日時　2020.7.3 15:00～16:30　場所　柿の木文庫

出席：係長、書記役の職員、鈴木

今年４月に組織改正があり、企画・地域支援係という係が新しくできた、会計年度任用職員制度も始まり、同一労働同一賃金ということで、今まで職員、嘱託職員、臨時職員が同じ仕事をしていたが、基本的に職員はカウンターに入らないことになったと、最初に係長から図書館の新体制について説明がありました。地域の人たちの話を聞くにあたって、手始めに地域で長く活動している人の話を聞きたいということで、鈴木に連絡があったので、柿の木文庫の場所でお会いすることにしました。柿の木文庫が昨年 35 周年になったことを伝え、記念のまつりをした際の記念誌を渡し、文庫の書架を見ていただいてから、話に入りました。意見交換の概要を伝えます。

鈴）**鶴川図書館**のことでは、2017 年から３年も存続を願う活動を続けているが、なかなか進展しない。

係長）市としては手順を踏んでいるつもりだが、再編計画では 2026 年までの短期計画ということだったのに、アクションプランでは、2022 年度からと記載されていて、唐突に話が展開しているという印象を持たれたかもしれない。

鈴）再編計画では、身近になければいけないものとある程度まとまっていいものとがある。図書館は、大きいものなら遠くていいというものではない。小野路などは、鶴川図書館からも遠くて、移動図書館のポイントになっていたのに、そのポイントが 2020 年からなくなってしまい、その上、もし鶴川図書館がなくなったら、駅前図書館から５キロ６キロとなってしまう、小野路の人たちを無視することになる。

鈴）2018 年５月に鶴川で行われたワークショップも、話し合いでは、どういう使い方をしているか、今後どのように使ったらいいかということを聞かれたのであって、図書館をなくす前提の話し合いではなかった。

係長）アクションプランにも鶴川を０にするとは書いていない。ただ、事実として駅前図書館ができた 2012 年以降、鶴川の利用者は他の地域館と比べても極端に減っている。

鈴）鶴駅ができた後に減っているのは当然。また、いま団地は建て替えのために新しい人を受け入れていないので人口自体が減っている。

係長）小さい図書館ほど利用者の減りは激しい、木曽山とか堺とか。とはいえ、先ほど言われていたように広い地域の方に図書館サービスを提供するのが我々の使命。収益性を求めてはいないが、どこかで線を引かないといけない。極端なことをいえば鶴川図書館の利用者が２週間に一人しか来ないとなったら、毎日開けるのはおかしい、という話になる。どこかで線引きはしなくちゃいけない。今でも小山田、小野路、小山のような図書館サービスに恵まれていない人がいる中で、鶴川も鶴駅もあって、鶴川の利用者が減ってきているとなったら、鶴川周辺以外のエリアの人にとっては不公平感があるのではないか。

仮に今皆さんの意見をすべて受け入れて、鶴川図書館を当面の間残すとなったとしても、５年から 10 年経った時にまた同じ話が蒸し返されると思う。

鈴）鶴川図書館には広いエリアから利用者が来ている。小さい割には。

係長）現在は公共図書館なので全館で同じことをしようとする。マンパワーや本の量が、小さい図書館だと弱くなるので、利用者にとっての魅力が欠けてしまうのではないか。

鈴）お年寄りと子ども向けに特化するのは？

係長）個性をだすのはいいことだと思う。だが鶴川図書館が、鶴川駅前図書館と同じような機能をもつただ小さい図書館になってしまうと魅力がない。そこは付加価値をつけていくことで持続可能性を高めることが出来ると思う。20,30,100 年と考えたときに、サービスを特化させるとか運営側でアクセントをつけるとか個性をつけてあげたほうがいいと思う。そのときに地域の人と協働してやっていますとか、福祉的な部分、障害のある人とか認知症の人とかのリハビリを兼ねてちょっとでもそこでお金をもらえる、とかなったら非常に先進的な取組となる。団地の商店会も頑張っているので、お互いに協力できると良い。市ができることっていうとやれることが限定されるので、そこに特色を付けて、新しいことをすると良い。

鈴）でもそうしたら図書館のネットワークが使えなくなるのでは。

係長）そこは相談させていただきたい。「町田の図書館」にも載っているが、鶴川図書館は予約が多く、レファレンスの量が少ない。アンケートで図書館にきた目的をきいても予約資料の受け取りが多い。しっかり図書館の使い方を知っていて、レファレンスのことを専門の司書に聞きたいことがある、という人には物足りないけれど、8,9 割の人には予約資料の受け渡しができて書架で本が見ることができればサービス的には足りているのではないか。

鈴）レファレンスまでいかない読書相談は大人から子どもまでする。

先日、副市長に子ども達とそのママの声が集められた「鶴川図書館大好き」の絵文集を届けた。それを見るとたくさんのこどもたちが図書館にいろいろ教えてもらったと書いていて、自動で予約本を受け取らない分、鶴川図書館はカウンターと利用者の距離が近く、鶴川駅前図書館と違う。予約の受け取りだけというのとは違う。

係長）鶴川は散歩のついでや買い物に来たついでに利用する方もいる。

地域の人が見守りをするために、地域の人がいてくれるのは良いことではないのか。

鈴）プライバシーの問題がある。予約の本を受け取るときに図書館の司書の方なら題名を言わないなど、プライバシーを守ってくれるが、地域の人だと守れない可能性がある。そもそも相手が図書館の人であっても顔見知りになってしまっているので借りる本を知られたくなくて、わざわざ鶴川駅前図書館に予約を設定する人もいるくらいだ。近所の人に司書の代わりはできない。自分たちも図書館に何ができるか考えて、そう思った

係長）図書館の自由に関する話だが、それはなかなか難しい。長く働いている人の方が見守りとかの点では良いけれども、そうすると顔見知りになってしまって、予約本を知られるのが恥ずかしくなってしまう。そうしたら地域の人じゃなくても個人情報の取り扱いとかの知識がある人なら良いのか。

例えば八王子では地域運営の一環として、市民センターで地元の人がアルバイトで働いていて、中央図書館や市の方から司書が一人行くと聞いている。図書館のネットワークにも確か入っているのではないか。

鈴）まちライブラリーみたいなのは困る。

係長）まちライブラリーは考え方が違う。あそこは交流がメインだから、鶴川図書館をまちライブラリーにするつもりではない。我々の願いは一人でも多くの方に読書の喜びを知ってもらい、体験してもらうことだと思っている。そういうときにどんな形であれ、市民が本を触れられる多様な場所があると良いと思っている。ベストセラーとかであれば、寄付とかでみんなが読め

るようになる。市民が色々な場所で本と触れあえるのは文化の豊かさになると思う。図書館しか図書サービスを提供できないのも良くない。民間図書室があってもいいし、まちライブラリーがあってもいいし、本屋、ブックオフ、色々な場所を通じて市民の方が本と触れ合う中で、読書の楽しさを知ってもらうのが理想。その中の一つとして鶴川図書館にもカラーをつけていいのではと思う。いい色を付けて持続可能性を上げていくのがいいと思う。公共図書館として残したいという主張について、ホームページや知恵の樹を読ませていただいたが、今やられているロビー活動とか熱意を何時まで持続出来るか。

鈴）民間に預けるのも同じ。市は義務があるが市民は自由意志。同じエネルギーが続くかはわからない。どういうものをイメージしているのか。

係長）今より本を置くスペースは狭くても、福祉団体の工芸品や飲食物が購入できるとか、商店会の新商品を置いてもいいと思っているが、市が決めるのではなく、そこは地域と話して決めていきたい。

鈴）商店会だって跡継ぎがいないと潰れる。市のものじゃなくなるので放棄することになるのでは。スタートだけお金出して、後はやらないのは違う。

もっと皆と会ってもらって決めていきたい。私の意見は、皆の意見の集約ではない。

係長）出来るだけ多くの方から話を聴かせていただきたいと考えている。だが、図書館を利用する人の殆どは、誰が運営しているかは気にしないのではないか。

この後、**図書館の指定管理者問題、図書館のあり方等**について意見交換した。

鈴）駅前図書館の指定管理者制度導入について７月１日から４日まで行った利用者アンケートについて、鈴木から、「今行っている駅前アンケートはよくない。指定管理が安心だよというチラシは公平でない。デメリットを載せるべき。そのアンケートをとって皆が賛成しているでしょ、というのは意味ない。議会に市民から意見を聞いてないと言われたから市民の意見を聞いたという証拠固めなのではないか？

係長）我々はアンケートで恣意的なことはしていないつもり。客観的な数字がでたらそれは提示するが、例えば「少しの数字しか出てないから、それは安心だ」といった特定の方向へ導く話はしない。図書館は基本中立。図書館を批判した本も置くし、多様な考え方を広く収集して読者の方に判断していただくというのが基本的なスタンス。でも、皆さんが作ったチラシを異なる視点からの意見と言う事で一緒に挟めば良かったですね。指定管理にして不満が市民からでるだろうか。

鈴）指定管理にしても、すぐに不満は出ないだろうが、５年くらいしたら不満がでるはずだ。

町田市は図書館に思いがない。生涯学習は市民にとって大事なものなのに。図書館側も市と戦おうとしてこなかった。

係長）コロナで先が見通せない時代だからこそ、学校の勉強だけすれば安泰ではなくなっている。それこそ哲学とか歴史とかリベラルアーツの重要性が益々高くなるだろうし、もっと図書館の価値が見直されて良いのではないか。

鈴）岡山市のように職員の人数を減らして、司書職員を増やし、図書館費を減らすのはどうか。

経済的な面を見ても、指定管理を一度導入したら、そこが外れて次が決まらないことも結構多いようだ。そうしたら金額を上げてでもお願いしないといけなくなることもあるらしい。直営

で、司書の少数精鋭でやっていくほうがいいのではないか。

（ここで再び**鶴川図書館**のことについて）

例えば鶴川駅前図書館が指定管理になったら鶴川図書館はどうなるのか、同時に管理するのか。

係長）色々なパターンがあるが、そこは話し合い。今はその前の段階なので。お互いの良い形を探っていきたい。まずは今日、一人の人として自分のことを知ってほしいと思ったから来た。順番が大事でまずは人として知ってもらって人間関係を構築していくのが第一。いきなりこちらの理屈を押し付けても空回りしてしまうと思う。ただ、市は公金を使って事業をしている以上、年限とプランは立てないといけない。人間関係を構築するのは時間がかかるが、かといって事業が全く進捗していかないのも問題がある。

まずは少人数でお会いしてお話を聴かせていただきたい。

鈴）「鶴川図書館大好き！の会」は鶴川図書館の利用者であり、鶴川図書館を大事に思っている人たち。メンバーのうち、鶴川に住む者は私を含めて 10 人位で、代表は富岡さん。その人たちに会ってはどうか。鶴川図書館の利用者も増やしていきたいと思っている。

係長）鶴川図書館の利用者が V 字回復したら話は違うが、そもそも UR の建て替えが先にあったのが、そこの話し合いが滞っているうちに、図書館の話が追い越してしまった。

鈴）UR のプランでは図書館が残ることになっている。あとは市がなんて言うかだ。

係長）図書館は無料サービスなので、地域団体に丸投げでは絶対に回らない。UR 側も賃料を含めて負担してくれると有り難い。

鈴木）UR はお金がないらしい。皆図書館を残してほしいと思ってはいるが、運営までできる人なんていない。

係長）八王子のように、行政側が地元の人に機械の使い方を教えたりする。八王子では図書館で働きたい人はたくさんいると聞いている。司書の受け皿も非常に少ない。皆さんで集めてもらうのはどうか。手嶋さんや守谷さんの素晴らしいレファレンス力を若い人に伝えてもらったり、大学生を司書資格の勉強のためにきてもらったりするとか。

鈴）責任はだれがとるのか。

係長）市の施設だったら最終的には市が責任を取る。藤沢とかも市民センターに図書室があって本が借りられる。あとは学校図書館を使えればいい。本を借りられるスポットが増える。セキュリティの問題をクリアーするのが大変だが。

鈴）守谷市は学校図書館と図書館ネットワークがつながっており、配達もある。一人あたり図書費 500 円の水準をずっと維持している。直営から一度指定管理になり、また直営になったけれど図書館費とは別に資料費がある。「子育て王国守谷」が今直営なのは、学校図書館とつなぐためだ。町田市はそこに力を入れていない。えいごのまちだだけではダメだ。2021 年までに決着がつかなくてもいいか。

係長）計画に記載がある以上、それに向けて全力を尽くすのが我々の立場としか言いようがない。なるべく多くの人と話をしてある程度でもまとまればいいが、担い手をつなぐのが我々の役目だと考えている。時間をかけて丁寧に関係を作っていく。

（その後、指定管理のこと、守谷市が直営に戻った理由、図書館協議会で図書館の運営について諮問されなかったことなどについて意見を述べましたが、紙面の都合上、省略します。）